

## 第2回（2011年度） 学会認定・臨床輸血看護師試験の結果

2012年3月26日

学会認定・臨床輸血看護師制度  
協議会 会長 大戸 齊  
審議会 会長 田崎哲典  
試験委員長 梶原道子

### (1) 筆記試験

1. 実施日時、会場：平成23年11月6日（日）、大阪医科大学
2. 時間、内容：2時間20分、多肢選択式問題30題（60点）、記述式問題12題（40点）
3. 受験者数：155名（申請者157名中、事前辞退者2名を除く）
4. 成績：平均点80.23点、最高点94点、最低点52点、標準偏差8.10点
5. 筆記試験合格者数：154名（得点60点以上）

### (2) 病院研修

1. 期間、会場：2012年1月10日～3月2日  
学会認定・臨床輸血看護師制度協議会の認定施設
2. 研修者数：153名  
（研修対象者は、筆記試験合格者154名と、昨年度の施設研修未了者1名の計155名であったが、2名が施設研修を辞退した）
3. 研修終了者数：153名

(3) 最終認定者数、合格率：153名、97.5%（受験申請者157名に対する割合）

### (4) 講評

大阪医科大学を会場として、平成23年11月5日（土）に講習会が、6日（日）に筆記試験が行われた。講習会には申請者157名中、2名の辞退者を除く155名が参加し、全員が翌日の試験に臨んだ。結果は上記の如く、60点以上の154名を合格と判定した。

病院研修は筆記試験の合格者を対象として、全国59の指定研修施設で行われた。評価は①輸血の意義と目的、②血液製剤の取り扱い、③輸血看護、④輸血副作用、⑤輸血検査、⑥血液製剤の準備・払い出し・管理、⑦症例検討の計7項目について、それぞれ(a)特に優れている、(b)優れている、(c)良い、(d)劣る、の4段階で評価された。総合評価では153名中、42名(27.5%)が(a)と判定され、103名(67.3%)が(b)、8名(5.2%)が(c)と判定されたが、(d)の判定は皆無であった。項目別では、昨年同様、③輸血看護で(a)と判定された者が36.6%と最多で、(b)判定まで含めると、96.7%は優れていると判定された。逆に、最も評価の低かったのが⑤輸血検査で、(a)判定は17%に過ぎず、16.3%が(c)と判定された。何れにしても総合で(d)と判定された受験者はなく、153名の病院研修の修了が確認された。以上より第2回の最終結果は153名を学会認定・臨床輸血看護師と認定することで、全過程を終了した。

今回の受験者の所在（都道府県）別の特徴として、東京、愛知、大阪など、大都市圏の受験者の増加が目立った。まだ、認定者がゼロの県もあるが、第1回目の133名と合わせ、現在、計286名の輸血看護師が全国の病院で輸血医療・看護に携わっていることになり、その輪が更に拡大していくものと思われる。